

からだのための命の経験、成長、務め

(金曜日——夜の部)

メッセージ 3

命の成長の緊急の必要と、心を対処することによる命における成長

聖書：エペソ4:13, 15-16. I コリント3:6. マタイ5:8. エレミヤ17:9. エペソ3:17

- I. 主の回復の中にいるわたしたちの間で、命の成長の緊急の必要があります。もしわたしたちが命における成長に欠けるなら、回復が前進する道はありません。そして最終的に、わたしたちはキリスト教の状態へと戻り、キリスト教の悲しい歴史の繰り返しとなるでしょう——エペソ4:11-16. マタイ13:31-33. II テモテ3:1-4.
- II. 命について最も意義深いことは成長です——エペソ4:13, 15-16 :
 - A. もし成長がないなら、それは命がないか、あるいは何か間違っているかのどちらかを意味します。わたしたちは命において成長する必要があります——I コリント3:6. 14:20. 16:13。
 - B. 地方召会において、聖徒たち間の問題を解決する最上の方法は、彼らの注意を命の成長に向けることです——ヨハネ6:57. I ペテロ2:2-3。
 - C. 命の成長は、召会生活の実行における主要な事柄です。このゆえに、わたしたちは命の成長に注意を払うべきです——エペソ4:13, 15-16。
- III. わたしたちは何が命の成長であるかを知る必要があります :
 - A. 命の成長は、わたしたちの内側で神の要素が増し加わって、ついにはわたしたちが満たされて神の全豊満へと至るということです——エペソ3:19。
 - B. 命の成長は、キリストの身の丈の度量が増し加わることです。わたしたちがキリストを愛し、キリストを追い求め、キリストにわたしたちの中に生きていただき、わたしたちを得ていただければいただくほど、ますますキリストの身の丈の度量はわたしたちの内側で増し加わります。これが真の命の成長です——ガラテヤ2:20. 4:19. エペソ3:17. 4:13。
 - C. 命の成長は、聖霊の地位がわたしたちの内側で拡大することです。わたしたちがわたしたちの内側での聖霊の働きを追い求め、わたしたちの内側の油塗りとしての聖霊の教えに従うとき、聖霊はご自身の地位を広範囲に拡大することができ、こうして神聖な命がわたしたちの内側で大いに成長します——ローマ8:11. エペソ5:18. I ヨハネ2:20, 27。
 - D. 命の成長は、人の要素が減少すること、すなわち、人の味わいが減少し、神の味わいが増し加わることです——マタイ16:25. ヨハネ12:25。
 - E. 命の成長は、天然の命が碎かれること、すなわち、わたしたちの手腕、能力、才能が碎かれることです。わたしたちが命において成長することを願うなら、わたしたちの賜物は神によってはぎ取られなければならない、わたしたちの敬虔という殻は神によって碎かれなければならない——II コリント4:16-17。

F. 命の成長は魂の各部分が征服されることです。わたしたちの魂が征服されれば征服されるほど、ますます命は成長します。またわたしたちの魂が減少すれば減少するほど、ますます命は増し加わります——ヨハネ12:24-25。

IV. 命の正常な成長は、主との直接の、個人的な接触からのみ生じます——Ⅱコリント3:18:

A. 命の成長は、主の生ける照らしから、またわたしたちの内側の事柄に対する主の即時的な指摘から生じます——Ⅰヨハネ1:5:

1. それからわたしたちは彼の臨在において応答します、「主よ、わたしはあなたを愛します。主よ、わたしはあなたの照らしにしたがってあなたを受け入れます。わたしはあなたの即時的な、現在の照らしにしたがってあなたを受け入れます」。
2. このような祈りは命の成長をもたらし、わたしたちは命の成長において大きな一歩を踏みだします——Ⅰコリント3:6. エペソ4:15。

B. わたしたちはみな主に行き、命の成長に関して意図して専一に彼との直接の接触を持つ必要があります。わたしたちがこのことを行なうなら、わたしたちの内側にあるものが殺され、排除され、命の成長が生じます——詩36:9。

V. わたしたちは心を対処することによって、命において成長します——マタイ5:8. ヤコブ4:8. エペソ3:17:

A. わたしたちがキリストをわたしたちの霊の中へと受け入れた後、わたしたちの心は純粋である必要があります。なぜなら、わたしたちの心は、キリストが成長し拡大することができる土壌であるからです——Ⅰコリント6:17. マタイ5:3, 8:

1. キリストはわたしたちの霊の中へとまかれて、わたしたちの心の中で成長し、拡大します。命の成長は、キリストがわたしたちの心の中で拡大することです——エペソ3:17。
2. キリストが願っているのは、わたしたちの心の中にご自身のホームを造り、わたしたちの内なる存在の各部分を所有することです——17節。
3. 多くの信者の成長を制限する問題は、彼らの心の中にあります——マタイ6:21. 12:34-35. 13:15. 15:8. 22:37。
4. もし、わたしたちが心に問題を持っているなら、あるいはわたしたちの心が間違っているなら、主にはわたしたちの中で拡大する道がありません——15:8:
 - a. マタイ第13章3節から8節と18節から23節における種をまく者のたとえにおいて、主が明らかにしたのは、種は最初の三種類の心の中で生長することができなかつたということです。なぜなら、それらには種が生長し、拡大するための地位がなかったからです。
 - b. わたしたちは自分自身に対して正直であるなら、心の中の地位を保留して、主に与えてこなかったことを認めるでしょう。
 - c. 命の種としてのキリストがわたしたちの心の中で成長しようとするなら、わたしたちは純粋で占有されていない心、すなわち、隅々までキリストに与えられている心を持つ必要があります。それによって彼はわたしたちの内側で拡大す

ることができます。彼が拡大することが、命の成長です——5:8. エペソ3:17。

B. 「あなたがた二心の者よ、あなたがたの心をきよめなさい！」——ヤコブ4:8:

1. わたしたちの心をきよめるとは、わたしたちの心を単一にし、ただ一つの目標を持つことです。わたしたちが二つ以上の目標を持つとき、わたしたちの心は不純であり、またわたしたちは二心の者です——マタイ5:8。
2. わたしたちの心が単一で純粋であるために、わたしたちは唯一の目標、すなわち、神ご自身を持つ必要があります——8節. マルコ12:30。
3. わたしたちの心をきよめるために、わたしたちは恵みを必要とします。わたしたちは主の恵みを受けて、絶えずわたしたちの心を対処する必要があります——ヘブル13:9. I コリント15:10。
4. わたしたちは、わたしたちの心の状態を見て、わたしたちの心を対処する必要があります。それは主がわたしたちの内側で拡大する道を持つためです——マタイ6:21. 15:8。

C. わたしたちが心を対処することは、主の照らしにしたがっており、彼の照らしは徐々にやってくるものです。主が光へともたらしめてくださる項目をわたしたちが対処するにつれて、彼は照らしを段階的に強化します。それは毎回わたしたちの心がさらに徹底的に調べられ、きよめられるためです——II コリント4:6. I ヨハネ1:5. 啓4:5。

D. 「心はすべてのものにまさって偽るもので、それはいやされることはない。だれがそれを知ることができよう？」——エレミヤ17:9:

1. わたしたちの心は偽るものであるもので、それを対処するのは難しいのです。
2. わたしたちの心の偽りの一部分は、自己憐憫と自己愛において現れます。わたしたちはとても自分自身を愛しており、自分自身に同情しているので、主がわたしたちの内側で拡大するのは難しいのです——II テモテ3:2。
3. 主は長い間わたしたちの霊の中にいますが、わたしたちの心が複雑で、混合しており、混乱しており、偽るので、彼がわたしたちの霊からわたしたちの心の中へと拡大する機会を得なかったのかもしれませんが——4:22. エレミヤ17:9. エペソ3:17。

E. 命の真の成長は、わたしたちの成長ではなく、わたしたちの中でのキリストの成長です——コロサイ2:19:

1. そのような成長はわたしたちの心にかかっているもので、わたしたちは心を対処する必要があります。それはキリストがわたしたちの内側で成長する道を得るためです——ヤコブ4:8. マタイ5:8. エペソ3:17。
2. 主は命を与える霊としてわたしたちの霊の中へと入りました。そして彼は現在わたしたちの霊の中で、ご自身をわたしたちの心の中へと拡大する機会を待っています——ヨハネ3:6. I コリント6:17. エペソ3:17. I テサロニケ3:13。
3. このような拡大は、わたしたちの中での彼の成長であり、わたしたちの中での彼の成長は、命におけるわたしたちの真の成長です——コロサイ2:19. エペソ4:15。

務めからの抜粋：

心に対処することによって命において成長する

神がご自身の律法をわたしたちの内なる各部分の中へと書き記すことは、神の照らしの下で、わたしたちの霊の中で、良心を通してわたしたちが告白することを伴います。わたしたちは自分の失敗、悪い行ない、弱さを告白すればするほど、ますます神にわたしたちの中で動き、働く機会を与えます。それは神の要素をわたしたちの内なる各部分の中へと書き記すためです。わたしたちの内なる各部分の中へと造り込まれた神聖な要素はすべて、自然に内なる規制する律法となります。このようにして、神の神聖な本質は最終的にわたしたちをいつも規制する内なる律法となります。そのような律法は神の聖なる性質にしたがっています。なぜなら、それは神の神聖な要素に属しているからです。

神の神聖な要素は神の性質であり、神の性質は聖です。神がご自身の神聖な要素をわたしたちの中へと造り込むとき、わたしたちの心は神の性質としての聖別の中で堅固にされ、固く土台づけられます（Iテサロニケ 3:13）。このような聖は演技や見せかけではありません。そうではなく、それはわたしたちの中へと造り込まれた神の神聖な要素です。わたしたちの心が聖別の中で堅固にされる時、わたしたちは新しい心を持ちます（エゼキエル 36:26）。

心の立場と機能

心はわたしたちの存在の入り口と出口である

この編でわたしたちは心の立場と機能を考えます。箴言第4章23節は言います、「何ものにもまさってあなたの心を見守れ。そこから命の流れが出てくるからである」。この「流れ」という言葉は源だけではなく、出口、出て行くことを暗示します。わたしたちの心から、わたしたちの日常生活のすべての流れ、出て行くことが生じます（参照、マタイ 12:24-35, 15:18-19）。わたしたちであるもの、わたしたちの真の存在の泉、源は、わたしたちの心から流れ出ます。わたしたちの心はわたしたちの存在の出口であり、入り口でもあります。こういうわけで、わたしたちの心は自然にわたしたちの存在の番人、見張り人となります。わたしたちは何ものにもまさって自分の心を見守る必要があります。なぜなら、わたしたちの心を守ることは、わたしたちの全存在を守ること、保護することであるからです。

警備員が建物を守るとき、彼の主要な場所は建物の入り口です。同様に、わたしたちは夜に寝るとき、あるいは家を出るとき、扉にかぎがかけられているかどうかを確かめます。このことは価値があるものを守ることに関して入り口と出口の重要性を例証します。わたしたちが自分の存在を守ろうとするなら、わたしたちは口、目、耳だけを守るのではなく、自分の心も守るべきです。なぜなら、わたしたちの心は自分の存在が出入りする通路であるからです。わたしたちの心を見守らないことは、わたしたちが夜に寝るとき、あるいは家を出るとき、家の扉を少し開けたままにしているのと似ています。このようにするなら、多くの好ましくないものが入り込むかもしれません。わたしたちは心を見守らないとき、すべての小さな「悪魔」がわたしたちの心の中へと入って来る道を残します。こういうわけ

で箴言は何ものにもまさってわたしたちの心を見守るようにとわたしたちに命じているのです。わたしたちは家の扉にかぎをかけるときはいつでも、わたしたちの心に「かぎをかける」必要があることを思い起こすべきです。それはすべての「細菌」がわたしたちの存在に入らないようにすることができるためです。

わたしたちはしばしば心を閉じる必要がありますが、心を開くことを学ぶ必要もあります。わたしたちは悪魔に対して心を閉じる必要がありますが、主に対して心を開く必要があります。わたしたちは心を守り、保護するとき、どのように敵に対して心を閉ざし、主に対して心を開くかを学ぶ必要があります。正常で、生き生きとしたクリスチャンとなるために、わたしたちはすべての消極的な事柄に対して容易に閉ざし、また主に対して、召会に対して、聖徒たちに対して、天の事柄に対して進んで開く心を必要とします。

命の交わりと心

ヨハネの第一の手紙第 1 章 1 節から 3 節は言います、「初めから存在したもの、わたしたちが聞いたもの、わたしたちの目で見えたもの、わたしたちが見つめ、またわたしたちの手で触ったもの、すなわち命の言について（この命が現れました。わたしたちはこの永遠の命を見たので、あなたがたに証しをし、また伝えていきます。この永遠の命は御父と共にいましたが、わたしたちに現れたのです）。わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます。それは、あなたがたもわたしたちと交わりを持つためです。わたしたちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです」。これらの節は、まず命の言としてのキリストの中で現れた神聖な命について語り、次に命の交わりについて語ります。ヨハネによる福音書は命についての書ですが、ヨハネの第一の手紙は命の交わりについての書です。この書簡の初めで命が証しされ、伝えられ、告げ知らされています（1-2 節）。この命が受け入れられるとき、それは交わりをもたらします（3 節）。こうして、ヨハネの第一の手紙第 1 章によれば、命は交わりをもたらします。

命の交わり

ヨハネの第一の手紙は教理的ではありません。それは命の経験にしたがって書かれました。わたしたちは主を命として受け入れた後、主と接触し、また他の信者たちと接触する傾向と願いを持ちます。この傾向と願いは命を伴ってやって来る交わりです。命は交わりを生み出し、交わりは命から来ます。

5 節と 6 節は言います、「わたしたちが彼から聞いて、あなたがたに伝える知らせはこれです。すなわち、神は光であって、神の中には少しの暗やみもありません。もし、わたしたちが神と交わりを持っていると言いながら、暗やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を実行していません」。わたしたちが命の交わりの中にあるとき、わたしたちの状態は暴露され、光の中へともたらされます。こういうわけで、交わりは光をもたらします。多くの時、わたしたちは個人的に、あるいは小組の中で聖徒たちと接触するとき、あるいは召会の集会に参加するとき、光があるのを感じます。わたしたちはある聖徒たちが交わりをしている部屋の中へと入るかもしれません。そして聖徒

たちのだれもわたしたちの状況に関して何も言わないかもしれませんが、そこには光の輝きがあり、暗やみから光の中へともたらされたという感覚を持つかもしれません。交わりの結果は光であり、光はわたしたちの状況を照らし暴露します。

わたしたちが直接、主と接触するとき、光の輝きはさらに強烈です。時にはわたしたちは自分が間違っていると全く感じないかもしれませんが、主と接触するとすぐに、光は照らし、自分が清める血を必要とすることを暴露します。ヨハネの第一の手紙第 1 章 7 節は言います、「しかし、神が光の中におられるように、わたしたちが光の中を歩くなら、わたしたちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちを清めます」。こうして、ヨハネの第一の手紙第 1 章には、命、交わり、光、血から成っている発展があります。命は交わりという結果になり、交わりはわたしたちを光の中へともたらし、光はわたしたちの状態を暴露し、わたしたちに自分の罪を告白させ、神の御子、イエスの清める血を適用させます。

わたしたちは第 1 章において血の清めを経験した後、第 2 章において油塗りを持ちます (20, 27 節)。血の適用、注ぎがあるとき、油塗りがあります (出 29:20-21, レビ 8:23-24, 30)。こうして、命は交わりをもたらし、光の照らしは交わりから来ます。光は血の必要を暴露します。そして血の注ぎは油塗りを適用する道を開きます。これら五つの項目、すなわち、命、交わり、光、血、油塗りは継続的な循環の中で一緒に進みます。

命の交わりは心によって守られる

過去に、わたしたちは神聖な霊、わたしたちの人の霊、命の交わりとの関係を強調しましたが、命の交わりとわたしたちの心との関係を考察してきませんでした。その結果として、わたしたちの間の多くの人は、心は命や交わりと全く関係がないと考えているかもしれません。この観念とは反対に、ヨハネの第一の手紙は、命の交わりがわたしたちの心によって保護され、守られることを見せています。ヨハネの第一の手紙第 2 章 20 節と 27 節において油塗りが語られた後、第 3 章は心に関して語っています。20 節と 21 節は言います、「わたしたちの心がわたしたちをとがめるとしても、神はわたしたちの心よりも大きくて、すべての事を知っておられるからです。愛する者たちよ、もしわたしたちの心がわたしたちをとがめないなら、わたしたちは神に対して大胆さを持ちます」。わたしたちの心の中にある良心は、わたしたちの内側にある神の支配の代理です。もしわたしたちの良心がわたしたちを罪定めするなら、確かに神は彼の代理よりも偉大で、すべての事を知っておられるので、わたしたちを罪定めするでしょう。良心はわたしたちの霊の一部分であるだけでなく、わたしたちの心の一部でもあります (ヘブル 10:22)。わたしたちの良心の中にある罪定め感覚は、わたしたちと神との交わりを断つ危険性をわたしたちに警告します。わたしたちがこのことに注意するなら、それはわたしたちと神との交わり助けとなり、わたしたちを主の中に住み続けさせます。

あるキリスト教の教師たちはヨハネの第一の手紙における命の交わりに関して語り、また他の教師たちは油塗りと血に関して良い書物を書きましたが、わたしは命と命の交わりを心と一緒にしたメッセージを聞いたことがありませんし、読んだこともありません。そ

れにもかかわらず、ヨハネの第一の手紙は命の交わりがわたしたちの心によって保護され、守られることを示しています。もしわたしたちの心が間違っているなら、わたしたちと主との交わりは断たれます。ヨハネの第一の手紙第 3 章 19 節は、わたしたちが神の御前で、心を安らげる必要があると言います。このことはわたしたちが訴えと罪定めから免れるように心を保つことによって、わたしたちの心を守る必要があることを意味します。これは良い良心、とがめのない良心を保持することです（I テモテ 1:5, 19, 使徒 24:16）。それはわたしたちの心がなだめられ、納得させられ、確信させられ、安定させられるためです。わたしたちの心の中にあるどんな罪定めも心が適切に守られていないことを示しています。

交わりは霊の中の事柄ですが（II コリント 13:14, ピリピ 2:1）、それは心によって守られています。多くの親愛な聖徒たちは、交わりが断たれるという損失を被りました。なぜなら、彼らは何ものにもまさって心を守るという事柄を軽視したからです。わたしたちはヨハネの第一の手紙における心の機能に注意を払う必要があります。第 1 章は命の交わりに関して語っています。第 2 章は油塗りに関して語っています。第 3 章はわたしたちと神との交わりを保持するために必要とされる適切な心に関して語っています。わたしたちが不注意であり、わたしたちの心に注意を払わないなら、わたしたちは何も間違っていない、またわたしたちの心の中に罪定めがないと感じるかもしれません。しかし、しばらくの間わたしたちは主の御名を呼び求めるなら、わたしたちの良心が罪定めに満ちていることを認識するでしょう。わたしたちの良心の中にある訴えは心の中にある罪定めです。なぜなら、わたしたちの良心はわたしたちの心の一部であるからです。ヘブル人への手紙第 10 章 22 節は言います、「わたしたちの心はすすがれて邪悪な良心から離れ……真実な心で、信仰の全き確信をもって、至聖所に進み出ようではありませんか」。邪悪な良心は訴えに満ちている良心です。わたしたちが至聖所において神とお会いしようとするなら、わたしたちはすすがれて、邪悪な良心から離れた心を持つ必要があります。

もしわたしたちが自分の罪を告白することと主の赦しと主の血の清めとを受けることによってわたしたちの良心の中にある訴えを顧慮しないなら、わたしたちは適切な方法で心を守っていないのです。もしわたしたちが心を守らないなら、わたしたちと神との交わりを失い、すべての「細菌」、消極的なものがわたしたちの心の中へと入って来ます。そのような状態から回復するために、わたしたちは心を新たに対処する必要があります。交わりを持つために、わたしたちは霊を活用する必要がありますが、この交わりを維持するために、わたしたちの心を守る必要があります。

わたしたちはある違犯を小さいものであると考えるかもしれませんが、わたしたちと主との交わり、聖徒たちとの交わりは繊細な事柄であり、最も小さな違犯がわたしたちの交わりを中断し、断ち切りさえすることがあり得ることを認識する必要があります。例えば、一人の年配の兄弟が一人の若い兄弟について批判的なことを語る少しばかりの意図を持っているかもしれません。もしこの年配の兄弟がこの小さな事柄において自分の心を守ることを軽視するなら、彼は霊の中で死んでいくのを感じ、彼と主との交わり、聖徒たちとの交わりを徐々に失うでしょう。わたしたちの霊は決して欺かれることができません。年配

の兄弟が若い兄弟と交わりを持つとうとするとき、彼はその若い兄弟を愛しているふりをし、彼に対して何の問題もないというふりをすることもできません。しかしながら、若い兄弟が霊を活用し、いかなる罪定めからも心を守る人であるなら、年配の兄弟が彼に語っているとき、その若い兄弟は年配の兄弟が内側深くで間違っており、彼らの交わりを妨げていると霊の中で感じるでしょう。正常な状態の中で、二人の兄弟が互いに語り合えば語り合うほど、ますます彼らの間の交わりは強化されます。しかしながら、この不正常的な状況の中で年配の兄弟が若い兄弟に語れば語るほど、ますますその若い兄弟は交わりがなくなるのを感じるでしょう。これは、年配の兄弟の心が間違っているからです。この種類の問題は外側の演技によって覆われることはできません。なぜなら、それは外側の事柄ではなく、霊が心を通ずる事柄であるからです。年配の兄弟が語る時、彼の霊は心を通じます。その心の中に問題があるのです。若い兄弟が年配の兄弟の言葉に注意を払うなら、欺かれるかもしれませんが、もし年配の兄弟の心を通ずる霊に注意を払うなら、その若い兄弟ははっきりします。わたしたちがどのような心を持っているかは、どのような霊が出て来るかを決定します。このゆえに、もしわたしたちの心が自分を罪定めするなら、出て来る霊は交わりの霊ではないでしょう。

主の御前でわたしたちの心に対処することによって心を守る

わたしたちはみな主の御前に行き、わたしたちの心を徹底的に対処する必要があります。このような対処がわたしたちの心を守ることです。わたしたちは心に対処すればするほど、ますますわたしたちの心を守ります。わたしたちの心が主の御前で適切に対処されるなら、心は純粹、単純、正直、忠信であるだけでなく、心を開く必要のある時に開き、閉じる必要のある時に閉じることが容易になります。そうすればわたしたちは主と聖徒たちに何の妨げもなく交わりのために開くことができます。ある状況においてわたしたちは一人の兄弟に交わりとうとするかもしれませんが、彼の心の中には往來がないかもしれません。わたしたちはありとあらゆる方向から彼が開くのを助けようとするかもしれませんが、突破することができないかもしれません。別の場合、わたしたち自身が交わりのために他の人たちに心を開くことができないかもしれません。このような問題はおもに心を顧みることを長い間軽視してきたゆえです。そのような問題を切り抜ける唯一の道は主の御前でわたしたちの心を徹底的に対処し、絶えずわたしたちの心を守ることです。

信者が主との交わり、召会との交わり、他の信者たちとの交わりを失うのは恐ろしい事柄です。こういうわけで、わたしたちは心を守る必要があります。それはわたしたちが交わりを保護することができるためです。命、交わり、光、血、油塗りの事柄を提示した後、命の交わりについての書であるヨハネの第一の手紙は、交わりを保護する見張り人、器官として、心を提示しています。わたしたちはみな命の道において自分の心に対処する事柄を実行する必要があります。わたしたちの心を通して、わたしたちの真の存在が出て来ます。わたしたちの存在の真の行き来はわたしたちの心を通してです。わたしたちの霊はわたしたちの存在の源ですが、わたしたちの心は通路、出入り口であり、それを通してわたしたちの存在の中で行き来が起こります。正常なクリスチャンとなるために、わたしたち

は確かに霊を活用する必要がありますが、すべてにまさって自分の心を見守ることによってわたしたちの心を守る必要もあります。（ウイットネス・リー全集、1970 年第 1 巻下、命において成長する道、第9編）